

# Connect



# No.3

## 2023厄払い





2月3日埴生神社にて厄払いがおこなわれました。  
今年の対象者は

前厄（58年生まれ）梅田衛君

本厄（57年生まれ）上野紘一先輩・北出修一先輩・都津川泰宏先輩

後厄（56年生まれ）福田梅太郎先輩・宮野敦彦先輩

の6名でした。

埴生神社で神社で厄払いをしたあとは里中にあるみかどにて懇親会が行われ、厄除けの祈願に多くの現役メンバーが集まりました！

今回は一つだけカラシ入りの饅頭をメンバーが食べ、全員に嘘のリアクションをしてもらい誰が食べたか当ててもらおうという余興を行いました。実行委員長の河合君の案でまさかの全員の饅頭がカラシ入りという結末に会場が大盛り上がりでした笑

# 2月度拡大例会

## ～会員の「増」と「強」～

講師に2022年度公益社団法人日本青年会議所理念共感拡大会議議長を務め2018年度JCI京丹後理事長の経歴を持つ櫛田 啓（くしだ たすく）先輩をお招きし『会員の「増」と「強」』というテーマにご講演をしていただきました。



櫛田 啓

くしだ たすく

社会福祉法人みねやま福祉会  
てらす峰夢（児童養護施設）  
施設長

- 2013年 入会
- 2015年 JCI京丹後 総務委員長
- 2016年 JCI京丹後 副理事長  
京都ブロック 委員長  
(ブロック大会運営委員長)
- 2017年 JCI京丹後 副理事長  
JCI日本 安全保障確立委員会 小幹事
- 2018年 JCI京丹後 理事長
- 2019年 京都ブロック 監査担当役員
- 2020年 京都ブロック 会長
- 2021年 近畿地区協議会 運営専務

JCの理念、理念共感についての講演はJC活動だけでなく社業や人との関わり家族との関係にも繋がるお話でメンバーだけでなくこの例会に参加していただいたオブザーバーの方たちも真剣に聞いていました。



拡大委員会の金城一聖君が筆頭におこなう拡大事業では15名のオブザーバーの方たちに参加していただき、講演と共にJC活動の意味を理解し共感していただくことができた事業になりました。ご参加いただいたオブザーバーの方たちが入会してくれるようメンバーも団結していかないとはいけません。

JCI飯塚のメンバーの方たちも今回の例会にお越しいただきありがとうございました。





# 3月度活動 スケジュール

6日	……………	予算・議案会議
7日	……………	エリア会議 美夜古
12日	……………	アカデミー開校式
15日	……………	第一エリア合同会議 豊前
16日	……………	常任理事会
17日	……………	3月度通常総会
24日	……………	理事会
25日	……………	日本総会
28日	……………	会員会議所

## ことわざメモ

### 仏造って魂入れず

よく見聞きする有名なことわざです。元の意味は「仏像を作っても魂を入れなければ、単なる木や石と同じである」であり、そこから転じて「せっかく良いものを作っても、大事なものが抜け落ちていれば、作った努力もむだになる」ということです。

今回の理念共感に通ずるところがありJC活動や社業でも上辺だけの理念だと誰も共感もてずついてこないとおもいます。

## 厄払いの由来

厄年の考え方は、古代中国から伝わった「陰陽道」という方術から影響を受けて生まれたと言われている。平安時代に公家の間で広まり、そこから武家や一般市民に伝わり、現在まで続いている。

厄年は、本来は還暦などの「年祝い」と同様におめでたい年だと認識されていた。神事に関わる機会が増え、神に仕える「役割」がある年齢だと考えられていたためだ。

しかし、厄年に当たる年齢は、就職や結婚などといったライフステージや**健康の変化が起きやすい年でもある**。そのため思わぬトラブルが生じやすく、慎重な判断が必要になるシーンも増えてくる。現在の厄年の考え方は、「大事な時期を平穩に過ごすために注意を払おう」という先人の教えから生まれたものなのだ。